

ちんだみ日和 第七回

チーチーカーカー 田所ヨシユキ

うちなーぐちでビックリした表現がこれ！



サーターアンタギーなどをどに詰まらせてムホツとかングツとかなるアレです。

最初聞いたときスズメの学校の先生かと思いました。

それはチーチーハッパ

音(おん)だけ聞いても何のことかさッパリ判らないけど何だか楽しいな表現で面白い。実際は苦しいけど...



沖縄民謡の名曲『芋の時代』に出て来ます。ご一聴あれ♪

たるーの島唄コラム

第七回 シマウタと怪談

もう夏も終わって秋風が吹いているというのに「怪談話」もないと思うけれど少しお付き合い願いたい。

沖縄の怪談と言えませんが思いつくのは「キジムナー」という木の精霊の話。赤い髪で子どもくらいの大きさで、ガジュマルの木に住んでいるという。キジムナーと友達になると魚を捕っては目玉だけ食べ、あとは人間にくれるという素敵な事をするかと思えば、彼の気に入らない事をするかと思えば、彼に火をつけてやらかすというよ。

照屋林助さんが作り照屋政雄さんが唄って出される「チョンチョンキジムナー」というウタの一節を訳すような。歌詞も曲も軽快で楽しい歌詞で人気も高い曲だが、どこか怪談っぽくも感じるように作ってある。

両手に鎌を持ち、耳を切るぞ！という坊主が毎晩立っていたという怪談が首里の「大村御殿跡」に伝わっている。これは琉球王朝時代に実在したある僧侶が悪事を働いているという理由で北谷王子によって成敗された。その後北谷王子の住んだ大村御殿の角には耳の無い妖怪が現れたという。それがウタになって伝わっている。

大村御殿の側で、耳切り坊主が立ってるぞ！何人何人立ってるか三人、四人も立ってるぞ！

訳すこんな「耳切り坊主」のウタは、沖縄のご家庭でも聞き分けのない子どもに唄って聞かせたのだとか。ただ、この僧侶は当時北谷王子や役人たちの不正を暴こうとして、逆に悪者にされて殺された、こんなウタまで後世に残されてしまったという全く逆の説もあるのだ。首里の龍潭池の前の大村御殿跡は今でもあるので是非行ってみてほしい。

私の体験で恐縮だが、三線を弾く方なら必ず訪れる「赤犬子宮」に一人で出かけた時の話。赤犬子(あかぬこ)さんは沖縄の三線音楽の始祖であり、沖縄に五穀をもたらした伝説上の人物。ある真夏の真昼間に、その碑の前に立っていると白いランニングシャツに短いズボンの男性が現れた。箒で落ち葉を掃除した後、私に向かって「赤犬さまに拝んであげようか」と言いウチナーグチで拝みだした。「私は赤犬子の末裔にあたる」というその方に感謝を述べ二人で記念写真を撮った。それから何年かして赤犬子に詳しい地元の民謡の先生にこの方のことを尋ねたら「そんな人いないなあ」とおっしゃる。何人もの人に聞いたが知らないと言った。記念写真を撮ったカメラは帰りのバスの中で探しても見つからなかった。一体誰だったのだろうか。謎が多いというのも沖縄の魅力なのかもしれない。

たるー(関洋)

宮崎生まれ。広島在住。琉球民謡協会教師。ネットでおなじみの「たるーの島唄まじめ研究」の著者。島唄の訳と解説をして10年。広島三線教室や「OC」果報バンド」を主宰。

伊波君の力と呼吸を感じながら僕はさらに力を添える。今日こそは...

伊波君の溜息がアイスから溢れる冷気を揺らした。僕が力んだせいかもしれないけど、僕らの儀式はまたも失敗に終わった。

伊波君の手には逆L字形、僕の手には少し棒の先が見えた、短いI字形のいち「ミルクルがあった。」「ああ、交換しよー」

伊波君は大きい方のアイスを僕へ向けて差し出した。伊波君は必ず大きい方を僕へくれた。伊波君はいつでもそうだった。僕は何度か断ったこともあったけど伊波君は別に大きい方を食べたんじゃないよ。ちゃんと二つに割りたいだけわけさ」と、白い歯を見せて言うので、僕は儀式に失敗する度に得をしってしまう状態になっていた。

伊波君は顎を上に上げ、アイスが手に垂れないように



に舌で舐めていた。

僕は今日言わなきゃいけないことがあった。この夏休みの間、毎日言わなければと思いつながら口にするこ

とができなかったことだった。

「なに？」

伊波君がそう言うと同時に僕の頬に水滴が落ちた。最初は蟬の小便かと思ったが、それはガジュマルの葉の隙間から届いた雨だった。見上げると太陽の光をわずかに透かした葉から雨が滴っていた。雨の雫は僕の顔を狙うように垂れ落ち、僕もそれを避けなかった。伊波君、僕、来週から東京に帰ることになったんだ。急だけど、またお父さんの仕事の都合で...」

それは夏休みに入ってから決まったことだった。だから学校で先生も言えなかったし、他のクラスメートにも知らせることができないでいた。『だからもう』僕はそれ以上口にできないでいた。『知ってたよ。明後日には内地に行くんだろ?』

新連載

大城密

ティーダアミ

この夏休み、僕と伊波君は毎日のようにいち「ミルクル」を食べていた。

いち「ミルクル」とは、練乳が先つちよに入りたいち「味の棒」アイスのことなんだけど、それは二つに分けられるようにアイスに溝が入っていて、さらに棒が二本刺さっている。

太陽の機嫌がまだ良すぎる夕方ごろになると、僕らは決まって公園近くの売店へ行き、そのいち「ミルクル」を二人でお金を出し合ってひとつ買った。肌を焼ける強い日差しからアイスを守るように、伊波君は体を曲げて走り、僕はその背中についていく。僕らはお決まりのように公園で一番大きなガジュマルの木の影へ入る。伊波君はすぐに袋を開きアイスを取り出した。一歩も止まらずあんなに走ったはずなのに、アイスは少し溶け始めていた。

「あの売店の冷凍庫しにやなーやっさー」

伊波君がベンキがほとんど剥けた売店の看板を覗む。

「今日も一番から取ったんだけしな...」

僕が首を傾げていると、伊波君がアイスを差し出した。 「じゃ、やろうぜ」 「うん」僕は渴いた喉にわずかに残る唾を飲み込んだ。それは僕らの儀式のようなものだった。アイスから伸びている二本の棒を同時に左右に引っ張るといものだ。互いが棒に力を均等に掛け、なおかつアイスの状態が良くなければ、平等に二つに分けられることはなかった。いち「ミルクル」は先つちよに練乳が入っているという構造上、二つに分かれた片方は逆L字形の頭でつかちになり、もう片方は短いI字形のようになることが多かった。

夏休みの間、本当に綺麗に二分割することに成功したのは、ただの三回しかなかった。成功したときは必ず、二人で西洋の騎士が剣を合わせるようにアイスを交差させ喜んだ。

僕らは互いの指先を見ながら慎重に二本の棒に力を加えていった。やたらと発色の良いピンク色のアイスが、いつもと同じように下からゆつくりと裂けていく。

「ミリミリ、と僕ら二人だけにしか聞こえない小さな音を立てながらアイスは少しずつ境界を作っていく。僕はこのときだけは蟬の声が聞こえなくなることに数日前に気づいていた。きつと今、眉根を寄せている伊波君もそうかもしれない。

僕は驚かなかった。何となく伊波君は気付いているような気もしていたからだ。アイスの大きい方をくれていたのは多分そのせいかもしれない。

伊波君の顔にもいつの間にか雨が滴っていた。伊波君は食べ終えて口に唾えた棒を動かし雨を弾こうと奮闘していたが、それが成功しているようには見えなかった。

「僕、また沖縄に来るよ」

「はあ? わーが内地に行くよ。いつになるかわかんないけど」

伊波君は厚い唇を歪めながら、横目でちらりと僕を見た。

「雨、止むかな?」

「止むだろ。多分」

僕たちはしばらく無言でぼうっと過ごした。いちごの甘さが何度も口の中どこから現れるのを僕は感じていた。

「伊波君、僕が今度沖縄に来たらまた遊んでくれる?」

僕の夏休みはみんなとは違ってあと二日、いや明日は準備があるから、今日で終わる。「今度? やー気が早いな。また今日の遊びが全滅終わってないやし」

雨はいつの間にか止んでいた。

伊波君は棒をゆつくりと口から出すと、僕に見せた。

「あ」

棒には薄茶色の焼き文字で「あたり」と書いてあった。

いち「ミルクル」は当たり付きの棒アイスだった。周りには当たった友達がいなかったんで、意識もしてなかったけど、伊波君の唾液が思いつきりついた当たり棒は太陽に照らされて、僕にはとても輝いて見えた。

「なあ、もう一回チャレンジしよ。今度こそ真つ二つ!」

売店の剥けかけたベンキが手招きするように風に揺れている。

伊波君は僕の返事を持たずに立ち上がり走り始めた。

僕は少し湿った土を蹴って走り、置いていかれないように伊波君の名前を強く呼んだ。



大城密 おおしろひでか



毎月沖縄をテーマとした3分で読める読み切り超短編小説シリーズを掲載! 次回第三話は「アングマ」。お楽しみに!

BASKETBALL PERFORMER JJ

RPCエンタメ通信 vol.7

RPC=琉球パフォーマンスコネクション

JJさんが出演!

CHIMERA GAMES VOL.4

日時: 10月14日(土)、15日(日)

開場 10:00

会場: お台場特設会場 (江東区青海臨時駐車場 NOP 区間)

価格: CHIMERA アプリ会員価格 一般 2500円、高校生 1000円、中学生以下無料

ども! クリエイティブアーティストのJJです!

今回は文字数の関係ですぐに本題へ。笑

私はモノマネタレントコロケ氏がプロデュースするショーレストラン「MIMICTOKYO」にも定期的に出演しているため、月に1度のペースで東京へ行くのですが、実は!! 今月は別のビッグイベントで東京へ行くんです!!

そう! 先月号でも少しだけスペースをもらい紹介させて頂きました日本最高峰のエキストラ・ストリートのイベント「CHIMERA GAMES」キョウゲイムズ vol.4」についてご紹介させて頂きたいと思います!

沖縄県内のエンターテイメントを紹介する! と言いつつ早くも東京のイベントを紹介してしまう裏切り行為をお許しください。笑

何故、私がCHIMERAを紹介しているのかと言いますと... 自分も所属しているからです。笑

CHIMERAの簡単な説明をさせて頂くと、野球やサッカーのようなメジャーなエンターテイメントが存在する中、私がやっているフリースタイルバスケットボールのようなマイナーなエンターテイメントも多数存在します。マイナーと言っても、プロで食べているプレイヤーや、世界中にファンがいるようなプレイヤーもいるので、観たら熱狂すること間違いのないパフォーマンスだと僕は確信していますが、そんなマイナーなエンターテイメントが結集し、力を合わせ革新的な場を作るためCHIMERAは生まれました。

CHIMERA GAMESはエキストラ・ストリート・音楽が絡み合う新感覚のフェスとして毎回お台場で開催され今回で4回目となりますが、ただ単にプレイヤーからスキルを教えるという一掃に体験することが出来るので、かなり貴重な体験になると思います。

CHIMERAが大切にしていることは「体験すること」です。プレイヤーがステージで魅せるパフォーマンスを全てのジャンルを実際に体験できます。それも、ステージ上でパフォーマンスを行ったプレイヤーからスキルを教えるので、一緒に体験することが出来るので、かなり貴重な体験になると思います。

全てのギア(道具)は無料で借りることが出来るため、手ぶらで来て楽しむことが出来ます。

是非、観て体験して、私達CHIMERAのファンになってもらえたらと思います!!

しかも、中学生以下は入場無料! 子供達の視野を広げるためにも大切な場所だと思います。

チケットのお問い合わせは「j@wbai.net」もしくは「キョウゲイムズ」で検索を!

会場お待ちしております☆